【科研報告】課題Ｎｏ．21520570: 誤用例の文脈分析に依存した上級作文教材

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Otaki, Sachiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/39718

【科研報告】課題 No　21520570
「誤用例の文脈分析に依存した上級作文教材」

金沢大学　大瀧幸子

1．はじめに

大滝幸子を代表者とする科研費研究「基盤研究 C：課題 No21520570「誤用例の文脈分析に依存した上級作文教材」による教材編纂例を報告する。本研究で企画した教材開発用ツールと教材内容は３タイプあり、その開発趣旨と使用状況を紹介する。

2．中日パラレルコーパスタイプ・２種類

2．1　正文パラレルコーパス

中日パラレルコーパスは、2002 年発売「中日対訳コーパス」(北京日本学研究センター製作) が公開された最初のものといえるが、そのコーパスを使用して書かれた論文集『中日对译语料库的研制与应用研究论文集』(2002 外语教学与研究出版社) では、いまだ統計学の基本的処理（有意差、T 検定、F 検定、標準偏差など）が加えられていなかった。しかし、現在ではコーパス用文法 tag として、品詞情報の自動付加のできるフリーソフトが、日本でも中国でも開発され、同時に統計的処理を行うプログラムを付帯した検索ソフトが開発されている。

本科研研究でも、すでに開発ずみの「パラレルコーパスを使用者自身が増量できる検索ソフト GPS（基盤研究 C：課題 No 14510484『テキスト構造に関する日中言語対照研究』の報告書で公開）に、より完成した機能を加えるために、検索ソフト Sachiko-lin を開発した。GPS が有していた機能のなかで、突出

した特徴である「パラレルコーパスを簡単に増量できる機能」を保持しながら、さらに、つぎの２つの機能を加えてある。

（1）一つの原作に対する複数の翻訳が同一画面で保存できる。

（2）品詞 tag と個別単語とを組み合わせた検索が可能である。

検索ソフトのスピードがあがってくるようになれば、専用の統計ソフトの開発に取り掛かることを予定している。

[図１]

[図１]に、このソフトの start 用バッチファイルを起動し login した直後の、最初の検索機能が表れている画面を示す。一般ユーザーが上段、管理者が下段の画面を操作する。

ともに、中国語の原作『駱駝祥子』についての４種類の日本語訳を検索するための設定をした画面である。

2．2　母語と第二言語のパラレルコーパス

第二言語学習者の作文は、そのなかに誤用が含まれていて当然の書き言葉であり、その誤用のタイプや分量を考察することによって、書き手である学習者の学習レベルを推測することができる。現在、多くの「学習者コーパス」あるいは「中間言語コーパス」と呼ばれる電子文書が蓄積されている。語用例を研究対象とする修士論文を作成する学生たちが、もっとも愛用しているのは、北京語言大学製作の「HSK 动态作文语料库」である。HSK の作文問題への解答を集めたもので、2009 年公開時には 10740 篇, 约 400 万字を備えていた。その後、中国における第二言語習得研究は長足の進歩を遂げ、さまざまな理論構築が行われつつある。

本研究は、金沢大学内の e-learning のシステムを用いて、母語での作文と（ほぼ）同一内容を第二言語で作文するパラレルな書き言葉資料を収集して、ネット上に蓄積しつつある。このパラレルコーパスが、NHK 動態作文コーパスと比べて突出した特徴は次の３点にある。

（1）回避の傾向を分析することができる。単一言語のみによる学習者コーパスでは考察対象でさえ捉えにくい。

（2）多義表現の誤用を判定できる。一見、意味が通るようでありながら、実際は意図を伝え損なう誤用を発見できる。

（3）学習者の母語による誤用の傾向を見いだせる可能性がある。つまり母語と対照して初めて母語干渉の様相を推定できる。

管理者をたててパスワードの管理を依頼してあるが、URL と表示画面は[図２]のとおりである。

[図２]

現在、このコーパスを活用して論文を作成中の学生がでてきている。例文そのものの面白さを若い世代が感得できることを願っている。

3．文体レベル差を示すネット教材タイプ

3．1　教材の作成目的および構成

日本の総合大学では、外国語トレーニングの授業レベルが当該外国語に存在する文体の区別を教授する段階まで進むことは、カリキュラムの設定上、不可能だといっても過言でない。しかし、留学生の論文指導にあたったことのある教員すべてが、文体に関する教育の必要性を感じているはずである。例えば、日常会話が日本人と見分けのつかないほど上手な留学生が、論文作成時に、「しかし」ではなく「でも」を使ったり、「だろう」ではなく「でしょう」を使用したりする。また、それぞれの単文には破綻がなく、文法的にも意味的にも誤用をみとめられない文章（段落）であるにも関わらず、読解しようとすると「表現意図が理解できない」長文を書いてくることがある。

前者の難点は、「１つの談話、文章では文体レベルの統一が必要」という訓練を課すこと、語彙の文体レベル差を意識させることで矯正できる過ちといえる。どの言語においても言語表現には、層をつみあげるような文体差があることを自覚した学習をさせることが肝要であろう。

一方、後者の難点が生じる原因は必ずしも文体への注意力が欠如しているためとは限らない。本研究の最も解明せねばならない誤用であり、おそらくは、初級時代に知識不足で生じる母語表現との混同とは異なるレベルで、上級時代に再度、母語の論理の運び方（視点の推移を含む）や思考の焦点の置き方（主観化を含む）が第二言語の用法に干渉してくるためと予想される。このような誤用を矯正するのに効果的な教材こそ、本研究が意図した上級作文教材である。詳しい考察は後述することとして、まず、文体レベル差に注意を向けさせ、文体の異なる表現を対照させる目的を

もつネット教材設計の概要を紹介する。

（1） 3種類の文体「口語体、書面体、文言体」を区別する。

（2）文章の用途は異なる人間関係にある相手への手紙文とする。

（3）文章の主題は手紙文教材の一般的分類項目をほぼ踏襲する。

（4）使用者に学ぼうとする主題と、対照する2文体を選ばせる。

（5） 文章中のキーワードや常用語句を、クリックして個々に対照しつつ、2つの文章を覚える。

このネット教材は現在、8つの主題に対してそれぞれ3文体の文章を整えた組合せが4パターンできている。（採録文章数は、8×3×4である）ただし、正確に文体差が反映された文章になっているかどうかの点検作業が不充分であり、したがって教材としても未完成な状態にある。学内の授業で使用し、本研究の研究分担者の諸先生からのご意見を反映しつつ、完成させていく予定である。また、授業中にＴＡの中国人留学生と日本人学生の間で作文校正のやりとりが行えるように誘導し、教室での学習意欲を高めることにより、中級レベルの教育実習にも使用できる教材として完成させたい。

3．2　ネット教材の画面（白黒なので不鮮明）

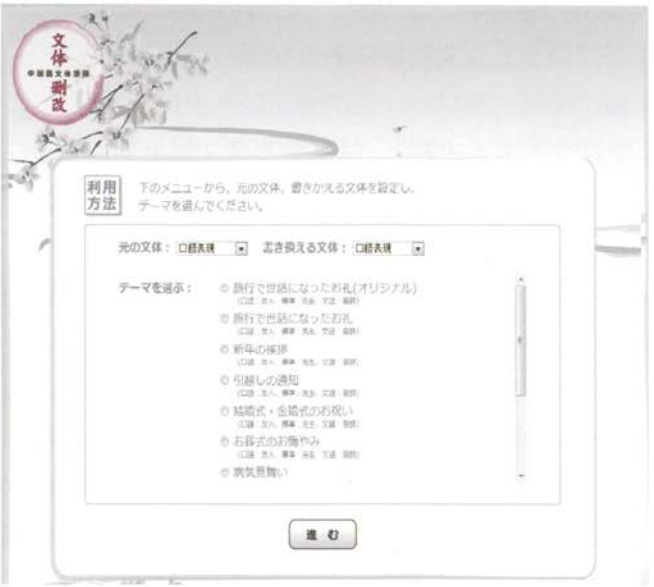
[図3]：教材の表表紙であると同時に、8種類の主題と対照する文体を選択する。

[図4]：基本となる文章が左側にでている。上にある「ポイント」をクリックして3種類の色を鮮明にださせる。

○単純な言い換え表現○内容の異なる表現○キーワード（索引利用可）それらの文字の中から興味を感じた表現をクリックすると、対照する文体の方に吹き出しがでて、ほぼ対応する表現がでてくる。

[全文を見る]をクリックし、右側の文章を鑑賞する。

[図 3]


文体
中国語文体添削
改
利用方法
下のメニューから、元の文体、書きかえる文体を設定し、テーマを選んでください。
元の文体：口語表現
書き換える文体：口語表現
テーマを選択：
旅行で世話になったお礼(オリジナル)
旅行で世話になったお礼
新年の挨拶
引越しの通知
結婚式・金婚式のお祝い
お葬式のお悔やみ
病気見舞い
進 む

[図 4]

文体
中国語文体添削
改
ポイントに注意しながら文体を変えてみましょう
旅行で世話になったお礼
ポイント
全文を見る
口語表現
標準書面表現
事先通知我
選択画面に戻る

4．学習レベル差を考慮したテキストタイプ

本研究の研究分担者王亜新教授は、MOE事業のときからの共同研究者である。今回の科研費研究の成果の一環でもある『中国語の構文』(2011 アルク）では、初級から中級レベルにあがっていく時に習得済みであることが好もしい文法知識を整理し、練習問題や誤用例の解説をつけて出版した。

大瀧とは少なくとも半年間、草稿をやりとりしてテキストの組み立てを工夫したが、最終的には王自身が出版社との協議により「20 の構文と 81 の文型」を選定して解説をつけた。初級の段階では学習者数も教材も多く、ともに多種多用の個性をみせるが、このテキストは単語数を抑えながらも丁寧に「中国語の基礎文型」を解説している。

今後大瀧は、このテキストで王亜新教授のたてた構文と文型を系統的に整理して、中級で学ぶ表現として位置づけられるべき、「構文、文型、コロケーション」を選定したうえで、解説を加えていく予定である。中級教材の企画を実現していく予定である。現地を離れた外国語学習において、学習レベルを追ったテキストが、いかなる効果を上げるか、ぜひ実験を続けたい。

また、従来商業ベースには乗り切れないゆえに開発が遅れている中級・上級の教材を充実させるために、時代を反映した流行語やコロケーションをコーパスの出現頻度を参考にしつつ取り入れるなど、工夫を凝らした企画を実現したい。